

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 愛媛県松山市一番町四丁目4番地2
管理機関名 愛媛県教育委員会
代表者名 教育長 田所 竜二

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 愛媛県立小松高等学校
学校長名 松浦 ヨリ子
類型 プロフェSSIONAL型

3 研究開発名

生活文化の伝承と多世代交流
共生のまちづくりに貢献する人材の育成

4 研究開発概要

- (1) 地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究
- (2) 学習指導方法の研究
 - 1年次 地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える。
 - 2年次 地域の生活産業・生活文化、多世代交流、共生のまちづくりを研究し、課題解決を図る。
 - 3年次 地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する。
- (3) 地域課題研究の評価方法の研究
- (4) コンソーシアムとの連携の在り方についての研究

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- | | | | |
|-------------|--|---|---|
| ・学校設定教科・科目 | <input checked="" type="checkbox"/> 開設している | ・ | <input type="checkbox"/> 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 活用している | ・ | <input checked="" type="checkbox"/> 活用していない |

(2) 実績の説明

ア 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・ 椿の消しゴム判子の活動を実施した「まちかど家庭科室～ふらっと～」は、コンソーシアム構成団体の株式会社D e c o代表で、地域協働学習実施支援員でもある處淳子氏が立ち上げた小・中学生と高校生の交流事業「小松地域未来塾」を発展させたものである。今年度は、コンソーシアム構成団体である小松公民館の協力も得て、小・中学生や地域の方を対象に実施した。
- ・ 「商品開発に向けて」は、コンソーシアム構成団体の處淳子氏が、和菓子を取り扱う株式会社大阪屋とのコーディネートを進め、開発した商品を西条市内店舗にて販売した。購入者へのアンケートを実施、集計し、今後の商品改良のためのリサーチをした。
- ・ 魚食文化研究では、昨年度に引き続き、魚を使った学校給食メニューの開発に取り組んだ。魚の調理法や栄養バランスを考えて考案した一食分の献立は、小松学校給食センターの協力により、コンソーシアム構成団体である小松小学校、小松中学校で提供された。また、コンソーシアム構成団体の處淳子氏が立ち上げた「小松地域未来塾」に参加し、魚食弁当の試作と料理研究家による講義を実施した。そして、コンソーシアム構成団体である小松公民館にて「海の恵みの魚食弁当」を小松婦人会の方々と調理し、配布した。

イ 事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・ 椿文化の継承は、小松つばき会や西条市小松総合支所から強く要望されている。また、この取組は、椿薫る小松地域の文化継承の活性化につながるものである。主な活動である「椿千年の森」の整備や「椿の水引細工・消しゴム判子」の作成等の活動は、小松つばき会や西条市小松総合支所と連携して実施していることから、経費の面からも継続が可能であると考えている。
- ・ 多世代交流の活動は、本事業実施前から保育園・幼稚園・高齢者福祉施設などにおける実習でも行われており、本事業実施期間中に実施方法の工夫や改善を行うことで、事業終了後も地域活性化に寄与できる事業として継続することができる。
- ・ 学校給食メニューの開発については、小松小学校や小松中学校で取り入れていただいた。今後も本県漁政課と連携し、魚食普及を目的とした学校給食メニューの開発と提供に継続して取り組むことができる。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「課題研究」「生活産業基礎」他における地域での探究学習						1回		2回		1回		3回
外部講師による講義・演習			3回				3回	4回	3回			
校外研修				1回				3回	4回		2回	
交流活動			1回				1回	3回	2回			2回
地域との協働によるコンソーシアムの構築			5回		1回	1回	4回	8回	2回	1回	2回	5回

(2) 実績の説明

※対象生徒：ライフデザイン科 1年24人 2年29人 3年31人

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア 研究開発	
(ア) 椿文化（西条市小松町の「椿文化」について、小松つばき会・西条市小松総合支所と連携して、いかに生活文化を伝承するか研究し、普及活動を実施した。）	
【児童文化財の製作】6月「子どもの発達と保育」で、椿文化普及のための玩具や壁面構成を考え、作成した。	2年 29人
【椿の水引細工・消しゴム判子講習会】12月19日(日)小松公民館において、小・中学生と地域の方に椿の消しゴム判子を作る講習会を開催した。生徒が講師となり、椿文化の普及に努めた。	1～ 3年 10人
【椿のコサージュ講習会】11月18日(木)「課題研究」で、フラワーデザイナー玉井初美氏による椿のコサージュ講習会を実施した。完成したコサージュは、小松小学校、小松中学校の卒業式で使用していただくため、贈呈式を実施した。	2年 29人
【児童文化財の活用】11月「子ども文化」の保育実習で、製作した椿に関する児童文化財を幼稚園へ持参し、子どもたちとレクリエーションを行い、交流した。椿について身近に感じてもらえる機会となった。	3年 9人
【椿のステンシルの制作】10月「課題研究」で、コースターやバッグ、パズルなどの小物に多く活用できるステンシル（転写の技法）を実施した。ステンシルしたポロシャツは、「まちかど家庭科室～ふらっと～」で本校生徒が着用した。	2年 6人
【椿のカレンダーの制作】11月「生活産業基礎」で、椿の写真を使用したカレンダーを作成した。カレンダーは校内に掲示した。	1年 24人
【折り紙の椿活用】3月「課題研究」で、折り紙で作る椿の作り方動画を作成し、小松中学校へ提供した。小松中学校の3年生が製作した折り紙の椿は、4月に中学校に入学する生徒に贈呈される。	2年 6人
【椿の記念植樹】3月「課外活動」で、卒業記念として「椿千年の森」と校内に椿の苗を植樹した。	3年 6人
(イ) 魚食文化（「魚食文化」について、地域人材を招いて学習し、レシピ開発・加工品開発のための料理教室等に取り組み、普及活動を実施した。）	
【講習会】12月15日(水)「家庭総合」で、漁協女性部の川又由美恵氏・稲井藤美氏による「魚料理講習会」を実施した。アジを三枚におろすコツを学び、南蛮漬けを調理した。	1年 24人
【学校給食献立の開発】10月から「フードデザイン」で、愛媛県産の魚を使った学校給食一食分の献立を各自で考案し、試作した。開発した献立は、小松学校給食センターから提供される予定である。	3年 22人
【シーフード料理コンクール】2月「フードデザイン」で、魚を使ったシーフード料理コンクールに応募するオリジナル料理を考案し、調理を実施した。西条市で水揚げされる鯛や鯖などを使用してレシピ開発に取り組んだ。	2年 29人
【魚を使ったお弁当の開発と配布】11月から「フードデザイン」で、愛媛県産の魚を使った料理を考案し、「海の恵みの魚食弁当」として、小松婦人会と共同調理し、小松地域未来塾で地域の方々に配布した。	3年 22人
(ウ) はだか麦（西条市において県内の市町村で生産量1位であるはだか麦について、特性を学ぶとともに、付加価値を付けた利用方法の研究に取り組んだ。）	
【講演会】10月22日(金)「生活産業基礎」で、愛媛県東予地方局地域農業育成室専門員山口耕司氏による講演会「はだか麦の可能性」を実施した。はだか麦の種類や生産の歴史、加工品等はだか麦に関する基本的知識を学んだ。	1年 24人
【講習会】11月22日(月)「家庭総合」で、地元菓子店「にじとまめ。」店主の田中直子氏による、マフィン作りについての講習会を実施した。	1年 24人
【はだか麦のレシピ集作成】12月「課題研究」で、これまでに考えた料理やお菓子のレシピをまとめ、編集し、レシピ集を作成した。	2年 4人

(エ) 商品開発に向けて	
【講演会】6月7日(月)「課題研究」で、株式会社大阪屋社長の山地良太氏を招き、「商品開発に向けて」をテーマに講演会を実施した。はだか麦を使ったお菓子についての助言や今後の商品販売についてアドバイスを受けた。	3年 31人
【株式会社大阪屋との商品開発と販売】10月から「課題研究」で、西条市産の里芋(伊予美人)とブルーベリーを使用した生菓子「ブルーベリーチーズタルト」を開発し、試作をしながら改良を重ねた。1月から、店舗「おおさかや 蔵はち」にて販売をした。	3年 10人
【クリーニングバッグのデザイン作成と販売】9月15日「美術Ⅱ」で、昨年度から開発していた椿を取り入れたデザインを投票にて選出した。西条市内事業所のクリーニングバッグに採用され、10月から販売を開始した。	2年 12人
【「くろ〜ば〜」との商品開発と販売】10月から「課題研究」で、椿の水引細工を製作した。就労継続支援B型事業所「くろ〜ば〜」が販売している御祝儀袋に採用していただき、販売をした。	3年 18人
【「にぎたつ会館」とのお弁当開発と販売】10月から「調理」で、愛媛県産の農産物や海産物を使用したお弁当5種類を考え、試作し、改良を重ねた。公立学校共済組合道後宿泊所「にぎたつ会館」料理長有光幸弘氏との検討会議を実施し、改良を加え、1月から販売を開始した。	3年 16人
【「ローソン」との商品開発と販売】8月から「課題研究」で、株式会社ローソンの真野あかね氏を招き、商品開発についての講義を実施した。愛媛県産かんきつを使用した「オレンジとチーズクリームのデニッシュ」と「幸せあふれるいよかんシュー」を開発し、2月から販売を開始した。	3年 31人
イ 地域課題研究	
(ア) 生活文化見学	
【生活関連産業見学】7月7日(水)今治市で、生活関連産業を見学した。タオル美術館で、タオル製造過程の見学やタオルを使った作品を鑑賞した。	1年 24人
(イ) 西条市の地域課題学習	
【地域課題に関する学習】6月「生活産業基礎」で、西条市より講師を招き、西条市の人口減少などについて講義を受けた。	1年 24人
(ウ) 先進地視察(県外研修)	
【地域産業視察】11月5日(金)・6日(土)高知県馬路村「ゆずの森」加工場において、施設の見学をした。特産品であるゆずを有効活用した加工品を知ることができた。	3年 13人
【地域産業視察】12月10日(金)～12日(日)長崎県五島市での視察を実施した。五島椿森林公園の見学や「椿油絞り」体験では、椿油を活用する参考となった。五島の椿株式会社では、椿酵母を活用したパンや化粧品などの商品について学んだ。	3年 4人
【地域協働事業実践校との交流】12月10日(金)～12日(日)福岡県で、福岡県立香椎高等学校との交流会を実施した。椿の水引細工講習会を開き、交流を深めた。	2・ 3年 6人
(エ) 伝統文化施設見学	
【和紙・水引】11月17日(水)、愛媛県産業技術研究所紙産業技術センターを見学した。四国中央市の伝統産業である和紙作りを学び、水引を使ったストラップ作りを体験した。	1年 24人
【和蠟燭】12月15日(水)内子町で、「木蠟資料館 上芳我邸」の見学をした。蠟燭だけでなく化粧品などにも使用されている木蠟の加工について学んだ。	2年 15人

② 成果の普及方法・実績について

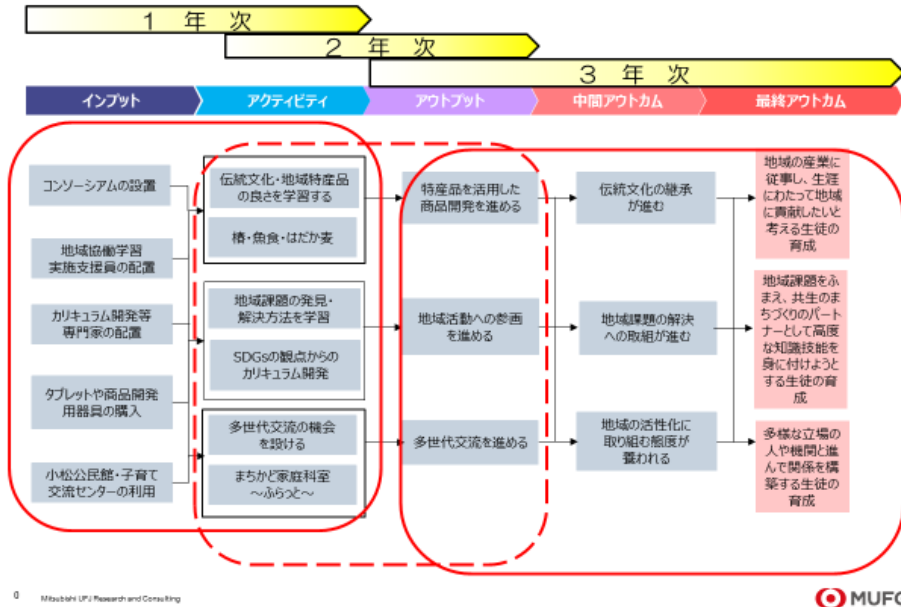
ア 研究開発
【椿の水引細工・消しゴム判子講習会】小松公民館にて、中学生と地域の方々に椿の消しゴム判子を作る講習会を開催し、椿の普及に努めた。
【クリーニングバッグデザイン】地元事業所から依頼されたクリーニングバッグのデザインに、小松町の椿を取り入れて作成し、販売した。
【魚を使ったお弁当の配布】愛媛県産の魚を使った料理を考案し、「海の恵みの魚食弁当」として、小松婦人会と共同調理し、小松地域未来塾で地域の方々に配布した。
【株式会社大阪屋との商品販売】西条市産の里芋（伊予美人）とブルーベリーを使用した生菓子「ブルーベリーチーズタルト」を開発し、販売した。
【「くろ～ば～」との商品販売】就労継続支援B型事業所「くろ～ば～」が販売している御祝儀袋に付ける椿の水引細工を製作し、販売した。
【「にぎたつ会館」とのお弁当販売】愛媛県産の農産物や海産物を使用したお弁当5種類を考え、販売した。
【「ローソン」との商品開発と販売】愛媛県産かんきつを使用した「オレンジとチーズクリーム」のデニッシュと「幸せあふれるいよかんシュー」を開発し、販売した。
【校内研究成果発表会】3年間の研究成果をまとめ、発表会を実施した。
【県内研究成果発表会】えひめスーパーハイスクールコンソーシアムの開催 ※えひめスーパーハイスクールコンソーシアムは、愛媛県教育委員会が主催し、県内高校等が、指定を受けた各種事業の取組や、独自の研究実践について、その成果を広く高校生・中学生にまで普及する成果発表会である。
イ 地域課題研究
<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化見学や地域課題学習、先進地視察を通して地域の課題を見つけ、その解決の手段について探究活動を行った。今後は、普通科にも学習を波及させる。 ・SNSの効果的な発信の方法を学び、今後、課題解決のための情報発信を行う。

11 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 目標の進捗状況、成果

本事業は、設定した数値目標を実現した上で、ロジックモデル（資料1）のように、「地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成」「地域課題をふまえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付けようとする生徒の育成」「地域課題をふまえ、多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する生徒の育成」を最終アウトカムとし、3年間のこの事業に取り組んできた。

資料1 ロジックモデル（令和元年度作成したものに今年度追記）

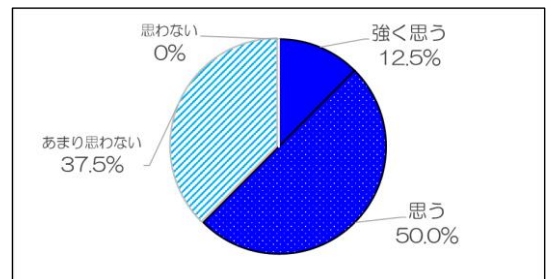


(三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成)

本事業を開始した1年次には、コンソーシアムや支援員などの人材を配置し、地域の課題発見・解決方法や、伝統文化・地域特産品の良さを学習した。2年次には、椿・魚食・はだか麦の研究を進め、多世代交流の機会を設けた。県内の地場産業視察を実施したことで、西条市の地域産業や伝統文化の魅力が改めて知ることができた。3年次には、特産品を活用した商品開発や地域活動への参画を進め、地域の活性化に取り組んだ。また、ポートフォリオを活用することで、地域との協働学習によって得た自分の成長過程を振り返らせることができた。本校ホームページで発信した情報を見たり、開発した商品を購入していただいたりした地域の方々から、高校生の活躍に対して声援をいただいたことで、生徒の自己有用感や行動意欲の高まりも見られた。

「地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成」について、3年間この事業に関わったライフデザイン科3年生31名にアンケートを実施した。「将来、地元で貢献したい（関わりたい）と思うか」の問いに対して、62.5%の生徒が「強く思う」と「思う」と答え、郷土愛や地域に貢献したいという思いがあることが分かる。実際、就職希望者9名中8名が西条市の企業に内定、1名が新居浜市の事業所に内定している。業種も、専門学科で学んだことを生かした介護職へ3名、調理へ1名、接客を伴うサービス業が2名である。進学希望者22名のうち、愛媛県内の学校へ進学する生徒が10名、その他は県外へ進学予定である。生徒の中には、これから西条市や小松町ともに自分たちが発見したこと、研究したことを生かして地域活性化につなげていきたいと感じている生徒もいる。

資料2 将来、地元で貢献したい（関わりたい）と思うか（令和3年12月実施）
ライフデザイン科3年31名



「多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する」について、学習活動（主体性、協働性、探究性、社会性）、学習環境（土壌）など 72 項目の生徒アンケートを活用し、本事業を3年間実施したライフデザイン科3年31名の変容を分析した。令和2年7月と令和3年12月を比較し、「肯定率の変化が大きい項目」を抽出した（資料3）。比較増減については、「学校外のいろいろな人に話を聞きに行く」が+42.1ポイント、「自主的に調べものや取材を行う」が+35.0ポイントと大幅に増加しているのは、県外研修や県内研修等の事前調査や研修先で事業所の方々に意欲的に質問した成果といえる。また、「活動、学習内容について大人と話し合う」が+33.1ポイント、「立場や役割を超えて協働する機会がある」が+23.3ポイントと増加しているのは、「まちかど家庭科室～ふらっと～」で企画・運営し、多世代交流を重ねたことや商品開発で各事業所の方と商品やパッケージデザインのアイデアを出し合ったり、自分の意見を伝えたりできた成果といえる。

資料3 「肯定率の変化が大きい項目」

上段：令和2年7月実施
下段：令和3年12月実施

対象：ライフデザイン科3年31名

質問項目	肯定率 (%)		比較増減 (%)
	(4点法のうち「4」「3」と答えた生徒の割合)		
q2 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	31.3	73.3	+ 42.1
q1 自主的に調べものや取材を行う	25.0	60.0	+ 35.0
q5 活動、学習内容について大人(教員や地域の大人)と話し合う	46.9	80.0	+ 33.1
q7 話し合った内容をまとめる	53.1	76.7	+ 23.5
q22 立場や役割を超えて協働する機会がある	50.0	73.3	+ 23.3
q21 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	46.9	66.7	+ 19.8
q36 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	40.6	60.0	+ 19.4
q6 自分の考えを文章や図表にまとめる	31.3	50.0	+ 18.8
q3 グループで協力しながら学習や調べものを行う	68.8	86.7	+ 17.9
q10 地域の魅力や資源について考える	65.6	83.3	+ 17.7
q24 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	53.1	70.0	+ 16.9
q45 学習を通して、自分がしたいことが増えている	37.5	53.3	+ 15.8
q46 情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	34.4	50.0	+ 15.6
q12 日本や世界の課題の解決方法について考える	28.1	43.3	+ 15.2

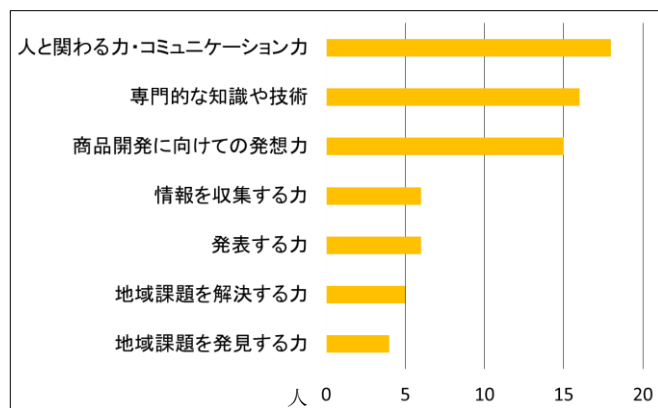
※グラフ内の数字は、4点法の「4」「3」（4＝よくする／よくある／あてはまる、3＝時々する／時々ある／どちらかといえばあてはまる）の回答割合肯定率を示す。

「地域課題をふまえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付ける」について、本事業で身に付いたと思う力について、3年生31名を対象にアンケートを実施した（資料4）。「人と関わる力・コミュニケーション力」と答えた生徒が半数以上を占め、地域の様々な世代の方と地域課題について話し合い、意見を交換することでコミュニケーション能力が身に付き、相手が伝えたいことを理解しようと努力するようになった生徒もいた。また、「自分に自信がなく、否定されると投げ出していたけど、人とうまく関わることで認められるし、自分にも自信が持てる気がした。これからも大切にしたい」と、人と関わることに自信を持つようになった記述もあり、生徒自身が自己の成長に確かな手ごたえを感じていることが分かる。また、ライフデザイン科である専門学科の特色を生かして研究を進めたことで、「専門的な知識や技術」「商品開発に向けての発想力」を約半数の生徒が身に付いたと感じており、進学の際には、専門性を高めるため、より高度な知識や技能を学びたいと意欲を向上させている生徒が多く見られるようになった。

資料4 「本事業で身に付いたと思う力は？」

複数回答可（令和3年12月実施）

対象：ライフデザイン科3年31名



(2) 評価

本事業の目的は、地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する人材の育成である。課題意識を持ち、生涯にわたって様々な人と協

働しながら、地域課題の解決を目指して主体的に行動し、生活文化の継承、生活産業の振興や多世代交流、共生のまちづくりに貢献する地域人材の育成に必要な力は以下のとおりであった。

- 地域で活躍する人材として必要な専門的知識・技術
- 地域の課題発見力・課題解決力
- 地域の課題解決のためのマネジメント力
- 他者と協働し学びを深めるコミュニケーション能力
- 商品開発を通じた発想力・企画力・実践力
- 地域課題研究の成果をまとめ、発表する表現力

このような必要な力を身に付けさせるため、「課題研究」や「生活産業基礎」に加え、「家庭総合」や1・2・3年生履修の専門科目である「フードデザイン」「子どもの発達と保育」「子ども文化」「調理」などの授業で取り組めるカリキュラムを開発し、学習指導法や評価方法の研究を重ねてきた。また、外部講師の講義や県内・県外研修、「まちかど家庭科室～ふらっと～」での普及活動を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、10月～12月に講義を集中して入れたり、県内・県外研修の研修先を変更したりして実施した。さらに、松山市内の施設ともオンラインで交流することができ、その時その時に有効な方法を選択して事業の目的が達成できるよう工夫できた。

12 次年度以降の課題及び改善点

- (1) 「美術Ⅱ」でロゴマークデザインを入れたクリーニングバッグを販売するなど、他教科・科目と連携することで、2年間で学んだ専門的知識や技術を更に向上させ、成果を上げることができた。今後は、3年間のこの事業で得た成果を普通科にも広げるための連携も必要である。
- (2) 本事業の目的の一つであるコンソーシアムとの連携の在り方については、西条市や地域の事業所に加え、地域の飲食店・企業家や地元のスポーツチームといった新たな諸機関との連携を強化し、地域の活性化といった課題解決に取り組むことができた。今後も、将来にわたって継続できる持続可能な事業内容を検討して実施していくことが重要と考える。
- (3) 「課題研究」や専門教科「家庭」以外にも、家庭クラブの活動や特別活動でも「椿文化」や「魚食文化」「はだか麦」についての研究開発を進めていきたいと考える。西条市の魅力を客観的に見つめ、活躍の場を広げるために、四国遍路で来訪される他県や外国の方々との交流を視野に入れた活動についても取り組ませたい。そして、この事業で連携することができた地域コミュニティを絶やさぬよう、生徒たちの発想力や実践力を引き出しながら、地域の活性化につながるような生徒の育成にも取り組んでいきたい。今後、西条市内で活躍している卒業生を外部講師として活用した授業実践にも取り組みたいと考えている。

ふりがな	えひめけんりつこまつこうどうがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	愛媛県立小松高等学校		

2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						単位: % (2021年度)
課題研究を通して課題解決能力が向上したと答える生徒の割合						
a 本事業対象生徒:			75.9	78.0	78.7	90
本事業対象生徒以外:		-				
目標設定の考え方: 地域課題研究を通して育成される力を総合的に測る。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						単位: 回 (2021年度)
コンクールやコンテストの入選回数						
a 本事業対象生徒:			3	2	3	5(年間)
本事業対象生徒以外:		2				
目標設定の考え方: 発想力・企画力・実践力の定着状況を測る						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						単位: % (2021年度)
地域社会に役立ちたいと考える生徒の割合						
a 本事業対象生徒:			72.4	78.0	59.3	90
本事業対象生徒以外:		-				
目標設定の考え方: 地域課題研究を通して地域への貢献意識が育まれたかを測る						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						単位: % (2021年度)
就職者のうち地元就職する生徒の割合						
b 本事業対象生徒:			-	-	88.8	85(2021年度)
本事業対象生徒以外:	75	80				
目標設定の考え方: 就職者のうち、地元就職するものの割合で地元への定着状況を測る						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						単位: % (2021年度)
将来地元での就業を希望する生徒の割合						
b 本事業対象生徒:			34.5	34.5	59.3	70
本事業対象生徒以外:		-				
目標設定の考え方: 進学者の地元への就業希望から定着状況を測る						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 人 (2021年度)
a 「まちかど家庭科室～ふらっと～」に参加した生徒数			34	61	84	114
目標設定の考え方: 本研究の中心となる活動への参加状況を測る。						
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回 (2021年度)
a 学校外での実践的な学習活動の回数	17	17	17	14	23	22(年間)
目標設定の考え方: 地域理解を深め、地域課題を解決するためには地域での学習が必須である。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回 (2021年度)
b 発表会の実施回数		4	5	4	10	6(年間)
目標設定の考え方: 校内外の発表会を開催することで普及を図る。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回 (2021年度)
b ホームページやライフデザインだよりへの掲載			69	71	90	100(年間)
目標設定の考え方: 学校ホームページやライフデザインだよりへ掲載することで地域の人への普及ができる。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 団体 (2021年度)
a 地域の機関と連携して実施した活動(講演、料理講習会等)回数		5	12	12	18	12(年間)
目標設定の考え方: 地域の多くの機関と連携して実施することで、主体的に地域社会に参画する力を育てることができる。						
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回 (2021年度)
a 地域課題研究に協働する地域の外部人材の参画状況		2	11	8	19	12(年間)
目標設定の考え方: 外部人材の活用により、効果的に地域課題研究を進めることができる。						
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						単位: 回 (2021年度)
a テレビ、新聞等、マスコミを通じて活動のアピールを行った回数		0	2	1	4	4(年間)
目標設定の考え方: マスコミ等を活用して広報活動を行うことで広く活動をアピールし、新たな連携につなげることができる。						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	445	424	410	399	375
本事業対象生徒数			34	60	84
本事業対象外生徒数			376	339	291